

オンライン

特別講座

令和4年度  
(2022年度)

受講料  
無料

# 球磨川流域圏 バーチャルキャンパス

KUMA RIVER BASIN VIRTUAL CAMPUS

受講期間 令和4年9月1日(木)～令和5年2月28日(火)

令和2年7月豪雨による災害からの創造的復興をめざし、球磨川流域圏の文化、歴史、環境をテーマにした無料公開講座を開催します。球磨川流域圏の地域としての魅力を発信し、多くの方に本地域に対する理解を深めていただき、復興活動を支援することを目的とした講座内容です。

 熊本県立大学  
Prefectural University of Kumamoto

オンライン

特別講座

# 球磨川流域圏 バーチャルキャンパス

KUMA RIVER BASIN VIRTUAL CAMPUS

第 1 回

9月1日(木)配信予定

[専門] 河川工学



島谷 幸宏

Yukihiro Shimatani

熊本県立大学共通教育センター  
緑の流域治水研究室 特別教授

## 流域治水の概論

昨年開始された、地域共創拠点の内容を軸に、流域治水の概念、流域治水の技術(河道拡幅、雨庭、追湿地、田んぼダム)、流域治水×観光、流域治水×IoT、流域治水×生物多様性などの流域治水と産業創成・持続的な社会を形作るための方法と考え方を講義します。

[主な経歴]

2003年 九州大学大学院工学研究院環境都市部門 教授  
1999年 九州大学 博士(工学)取得

第 2 回

9月8日(木)配信予定

[専門] 河川工学



島谷 幸宏

Yukihiro Shimatani

熊本県立大学共通教育センター  
緑の流域治水研究室 特別教授

## グリーンインフラと 世界の河川と流域治水

流域治水の重要な手法となるグリーンインフラの概念とニューヨークの事例について説明します。河川に対する理解を深めるために、ドイツ、スイス、ナイル川などの河川の状況、自然再生の状況について写真を使って楽しく話をします。

[主な経歴]

2003年 九州大学大学院工学研究院環境都市部門 教授  
1999年 九州大学 博士(工学)取得

第3回

9月15日(木)配信予定

[専門] 防災、危機管理、防災行動学



松尾 一郎

Ichiro Matsuo

東京大学大学院情報学環  
総合防災情報研究センター 客員教授

命を守ったタイムライン(防災行動計画)、  
その減災効果を知る～タイムライン防災とは?～

2013年、演者が米国で発見した「新たな防災計画」、その後の取り組み、災害タイムラインの概要など、今後のこのタイムライン防災の変遷と展開を解説します。球磨川流域におけるタイムライン防災の運用状況などを踏まえ、令和2年7月豪雨災害でタイムラインはどのように使われたのか、命を守ったのか、住民の防災行動調査を踏まえ、その効果と今後を展望します。

[主な経歴]

2013年 東京大学生産技術研究所リサーチフェロー  
2010年 CeMI環境・防災研究所副所長

第4回

9月22日(木)配信予定

[専門] 気象予報、気象防災



村中 明

Akira Muranaka

NPO法人環境防災総合政策研究  
機構 理事

大雨を知り、大雨災害を防ぐ

令和2年7月の球磨川流域での大雨、洪水災害をひとつの事例として、九州・熊本県に着目しつつ日本の大雨の特徴、近年の大雨や台風による災害の状況、気象災害から身を守るための気象情報の利用、大雨に際しての防災行動のポイントなどについてお話します。

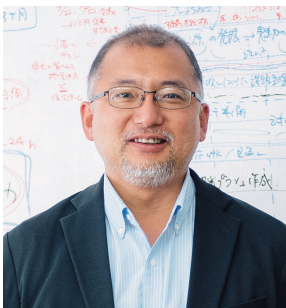
[主な経歴]

2017年 東邦大学理学部生命圏環境科学科 講師  
2010年 気象庁予報課主任予報官を経て、予報課長

第5回

9月29日(木)配信予定

[専門] 地域計画、農村計画、景観計画



柴田 祐

Yu Shibata

熊本県立大学環境共生学部  
居住環境学専攻 教授

災害と復興まちづくり

被災者の生活再建は、人口減少と高齢化が進む地域の将来とセットで考えなければなりません。地域の明るい未来を描きながら復興まちづくりをどのように進めるのか、熊本地震をはじめ全国の被災地の取り組みから考えます。

[主な経歴]

2013年 熊本県立大学環境共生学部 准教授  
2001年 大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻 博士後期課程 修了(博士(工学))

第6回

10月6日(木)配信予定

[専門] 河川工学



島谷 幸宏

Yukihiko Shimatani

熊本県立大学共通教育センター  
緑の流域治水研究室 特別教授

## 伝統治水方式と流域治水

稲作を中心に発展してきたわが国にとって、水のマネジメントは国土の管理の中で極めて重要でした。これらの歴史を弥生時代から振り返るとともに、近世に行われた伝統的な治水方式およびアフガニスタンで実施された中村哲さんの利水事業などの事例を紹介します。

[主な経歴]

2003年 九州大学大学院工学研究院環境都市部門 教授  
1999年 九州大学 博士(工学)取得

第7回

10月13日(木)配信予定

[専門] 地質古生物学



大木 公彦

Kimihiko Ohki

鹿児島大学 名誉教授

## 3億年の歴史から読み解く 球磨川流域の成り立ち

球磨川はなぜ急流なのでしょう。上流になぜ人吉盆地が存在するのでしょうか。球磨川の両岸には過去3億年の地層が露出し、人吉盆地には湖に堆積した地層が厚く堆積しています。災害にも触れながら、この地域の成り立ちについて考えます。

[主な経歴]

2001年 鹿児島大学総合研究博物館・理工学研究科 教授  
1987年 東北大学 博士(理学)取得

第8回

10月20日(木)配信予定

[専門] 都市計画、まちづくり、近代建築や歴史的町並みの保存



磯田 節子

Setsuko Isoda

一級建築士事務所  
もやいデザイン工房 代表

## 令和2年7月熊本豪雨で被災した 登録有形文化財人吉旅館と芳野旅館の再生

令和2年7月熊本豪雨で被災した人吉市の国登録文化財人吉旅館と芳野旅館の修復に関わりました。修復に際して文化財としての価値を失わないために具体的に何を重視すべきか、限られた予算や工期の中で再生に向けてのプロセス、問題点や課題について講義します。

[主な経歴]

2001年～ 熊本高等専門学校建築社会デザイン工学科で教鞭をとる  
1995年 熊本大学大学院自然科学研究科博士課程修了 博士取得



第9回

10月27日(木)配信予定

[専門] 河川工学



島谷 幸宏

Yukihiko Shimatani

熊本県立大学共通教育センター  
緑の流域治水研究室 特別教授

## Eco-DRRと将来の 流域治水のあり方

災害のベースは自然地形にあります。そこで、まず自然地形と災害の関係性についての基礎知識を学び、さらに近年世界的に注目されているEco-DRR(生態系に基づいた防災)について学びます。そこから流域治水の話に戻り、将来の国土形成と流域治水の関係性について考えます。

[主な経歴]

2003年 九州大学大学院工学研究院環境都市部門 教授  
1999年 九州大学 博士(工学)取得

第10回

11月2日(水)配信予定

[専門] 河川環境、応用生態工学



皆川 朋子

Tomoko Minagawa

熊本大学大学院先端科学研究部  
准教授

## 球磨川を代表する魚類、アユと 河川の自然環境の健全性との関係

球磨川を代表する魚類、アユは河川の自然環境の健全性やダムの評価する際の指標種としてしばしば用いられています。アユの生態、生息場や産卵場の特徴、ダム建設が及ぼすアユへの影響を紹介し、河川の自然環境の健全性とアユとの関係について学びます。

[主な経歴]

2012年 熊本大学大学院自然科学研究科 准教授  
2004年 九州大学 博士(工学)取得

第11回

11月10日(木)配信予定

[専門] 動物生態学、河川生態学



一柳 英隆

Hidetaka Ichiyangagi

熊本県立大学  
緑の流域治水 学術研究員

## 球磨川流域の生き物の くらしとその保全

球磨川流域の魅力あふれる生態系について、おもに水域を中心に紹介します。また、その生息地改変による衰退や生息地再生の取り組みなどについても話します。

[主な経歴]

2009年 一般財団法人水源環境センター 上席主任研究員  
2000年 東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了

第12回

11月17日(木)配信予定

[専門] 森林流域管理学



蔵治 光一郎

Koichiro Kuraji

東京大学大学院  
農学生命科学研究科 教授

## 球磨川流域の森林の歴史と現在

人間が森林に求める価値は多種多様です。球磨川流域の森林は木材生産を中心に管理されてきましたが、今後は「緑の流域治水」の観点や地域の長期持続性の観点とのバランスを取った管理が求められています。そのための基礎情報として、球磨川流域の森林の歴史と現在について紹介します。

[主な経歴]

2001年 東京大学大学院農学生命科学研究科 講師  
1996年 東京大学大学院農学生命科学研究科 博士課程修了(博士(農学))

第13回

11月24日(木)配信予定

[専門] 生態学、環境教育、科学教育



遠藤 晃

Akira Endo

南九州大学人間発達学部 教授

## ニホンカモシカの保護と ニホンジカ、森、そして人間

国の特別天然記念物ニホンカモシカの保護へ向けて、九州で動き出したストーリーに沿って、ニホンジカの生態、森林植生への影響、ニホンカモシカとの競合、人間との関わりなどを個別の情報としてでなく、SDGsのための「持続可能な社会づくりのための教育(ESD)」の視点から総合的に学んでいきます。

[主な経歴]

2010年 南九州大学人間発達学部 准教授  
1997年 九州大学大学院理学研究科博士課程修了 博士(理学)

第14回

12月1日(木)配信予定

[専門] 建築歴史、意匠



森山 学

Manabu Moriyama

熊本高等専門学校  
建築社会デザイン工学科 教授

## 球磨川下流域の神社や お堂、伝承にみる水の暮らし

水とともに生きてきた球磨川流域の集落をめぐり、神社やお堂、伝承にヒントを得て、それらに込められてきた水との暮らし、思い、祈りを考えてみます。

[主な経歴]

1999年 八代工業高等専門学校 助手(2009年に熊本高等専門学校に校名変更)  
2002年 東京大学大学院工学系研究科 博士(工学)

第 15 回

12月8日(木)配信予定

[専門] 歴史学



小川 弘和

Hirokazu Ogawa

熊本学園大学経済学部 教授

## 中世の球磨地域と相良氏

仏像胎内銘の相次ぐ発見は、中世球磨の社会の基礎は相良氏入植前に築かれていたことを明らかにしました。新出の中世系図は、幾つもの家に分岐・浮沈させた相良氏の複雑な地域定着過程を知らしめました。かかる地域に根ざした歴史遺産が拓きつつある研究の最前線、人吉相良氏に尽きない中世球磨の新たな地域史像へと招待しましょう。

[主な経歴]

1999年 熊本学園大学経済学部 講師

1996年 東北大学大学院文学研究科国史学国史専攻博士後期課程修了

第 16 回

12月15日(木)配信予定

[専門] 海洋生態学、マイクロバブル応用技術



堤 裕昭

Hiroaki Tsutsumi

熊本県立大学 学長・特任教授

## 酸素マイクロバブルを用いた農作物栽培技術が農業に新たな技術革新をもたらす

酸素マイクロバブルを用いて作成した高濃度酸素水を灌漑水に利用して農作物を栽培すると、様々な農作物で肥料の吸収力が高まり、成長を大幅に促進することができます。この新技術の概要を紹介し、球磨川流域圏の基幹産業の1つである農業の振興を図る試みを紹介します。

[主な経歴]

1999年 熊本県立大学環境共生学部 環境資源学専攻 教授

1985年 九州大学大学院理学研究科博士課程 修了 理学博士

第 17 回

12月22日(木)配信予定

[専門] 産業振興



宮野 英樹

Hideki Miyano

公益財団法人 地方経済総合研究所  
事業連携部兼研究開発部 部長

## 球磨川流域圏の自然・文化資本を活かす～球磨焼酎による地域活性化～

地方経済総合研究所は、被災した球磨焼酎の蔵元が復興に向けて取り組む海外への販路拡大を支援するプロジェクトに取り組んでいます。球磨焼酎を通じた流域圏の自然、文化資本を経済資本に転換する地域経済循環モデルの構築が期待されます。

[主な経歴]

2009年 財団法人地域流通経済研究所 入所(2012年に公益財団法人地方経済総合研究所に名称変更)

1997年 株式会社肥後銀行 入社

令和4年度(2022年度)

オンライン特別講座

# 球磨川流域圏バーチャルキャンパス

KUMA RIVER BASIN VIRTUAL CAMPUS

令和4年9月1日(木)～令和5年2月28日(火)開講

受講料  
無料

## 受講生募集

熊本県立大学オンライン特別講座「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」の受講生を募集します。期間中配信する全17講座の中から、興味のあるものを選んで受講いただけます。もちろん全講座受講もできます。

### 受講方法

Microsoft Teamsを利用したオンデマンド配信を、PCやタブレットなどの端末をご自身で操作して受講いただけます。各講座の配信開始以降は、期間中であれば、いつでも受講できます。端末の貸し出しはありませんのでご了承ください。

### 受講要件

- 高校生以上であること
- 個人のEメールアドレスを有し、送受信を日本語でできること
- 受講規約(ホームページ上に公開)に同意すること

### 申込方法

WEBサイト「地域ラブラトリー」の募集ページに掲載している応募フォームからお申込ください。

<https://puk-loveratory.com/news/5969/>



### 申込締切

令和4年7月31日(日)

### 定員

先着200名

### 受講決定通知

令和4年8月19日(金)までに発送

受講決定通知書およびユーザーIDは、登録いただいた住所に郵送し、パスワードや使い方マニュアルは、別途登録Eメールアドレスへ送信します。

### 問合せ先

熊本県立大学 地域・研究連携センター

TEL. 096-321-6612

E-mail. renkei-c@pu-kumamoto.ac.jp

担当: 小田原・渡邊